



発掘 文学の宝



先月に続き、五足の靴のメンバー木下空太郎後編です。森宗意軒が登場する戯曲『天草四郎』の一節は、天草への旅を通して、空太郎がいかにこの地に影響を受けたかが分かります。

企画／ドットワークス 下川嘉奈

木下空太郎

1885年8月1日-1945年10月15日、
本名：太田正雄。静岡県伊東市出身。

皮膚科の医師であり、劇作家、翻訳家、美術史・切支丹史研究家、さらに『百花譜』（植物写生872枚）を描くなど多才。



生誕140年

「五足の靴」リーダー 世界的皮膚科の名医

平井 建治

読者は、山田風太郎の長編伝奇小説「魔界転生」をご存知だろうか。映画では千葉真一と沢田研二が主演して大ヒットしたし、演劇・マンガ・アニメなどにもなった。天草島原の乱後、宗意軒は、由井

正雪と徳川幕府転覆を企てた妖術師である。鹿児島県の古文書によると、宗意軒は大坂河内の社家の息子で、小西行長の妻は兄妹と言われる。若い時にオランダに渡り、魔法・火術・医学を学び帰国。大坂の乱では真田幸村に加勢、徳川家康に敗れて、天草に隠棲したとされる。

（戯曲「天草四郎」上の巻第一場より）
寛永14年10月某日。天草大矢野村。海を見晴らす丘。背景にやや大なる家屋の壁。森宗意軒笠にて斜日を防ぎ、壁

際に立って人を待ち合わせて居る。千束善右衛門下手より来る。
（宗意軒）千束殿、首尾はどうであった。
（善右衛門）折好く父子とも在宅であった。やがて二人とも此処に来る筈だ。
（宗意軒）どんな人物だな。
（善右衛門）いかにも賢さうなわか者だ。人品も好くて、

容貌も美しい男だから、まづまづあれで結構だ。百姓どもも疾うから敬服している風情だ。
（宗意軒）どうすの御教儀の事はどれほどに得心して居ろう。ゝ

（善右衛門）まだしかとはたださなんだが、かてきすもの修業もつんでいるとのことだ。いかさま親御は摂津守殿の家来であれば、信心のほども堅かるう。もと長崎に在って、金鏑次兵衛とも知り、少しばかり魔術も、教わったとのことだ。されば呂宋南蛮の様子も聞き知っている。長崎講中の同じ仲間には、是れも梶野次兵衛と云うがあつて、もともと大矢野の者だが、此者が四郎に、御辺は天使じゃ、救いの主じゃと言いきかせたに因って、今では己もそう思い募っている。ゝ

空太郎を知るには、「木下空太郎と熊本『五足の靴』天草

を訪ねる」（発行：平成15年、編著：小野友道、発行：熊日出版）がある。その中に熊本

大学名誉教授・首藤基澄は、空太郎を次のように激賞。「空太郎は、大正3年8月、戯曲『天草四郎』を発表した。天草島原の乱を、関ヶ原の戦いに敗れた豊臣の残党森宗意軒の、幕府体制への抵抗という視点を打ち出している。一幕で、

宗意軒の乱を宗教戦争とする見事な筋書きを描き、一幕で、その傀儡となった四郎、背教者となった右衛門作の生を照射し、遠藤周の『沈黙』に通底する人間像を造型して、深い感動を与えることになる。」最後に、本渡の行徳素雄先生が推奨した「いば神様」を紹介する。小宮地・大多尾線旧道の峠に祀られている「いば地蔵」。祠の小石を自宅に持ち帰り、患部に擦り付け、いばが治ったらそっと祠に返しておくと、という霊験あらたかな伝説。